

にしく市民活動支援センター にしとも広場

2014(平成 26) 年度事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

I. センター運営の方針

「区民のつながりを育み、力を活かしあう地域協働の総合拠点」をめざして

2014 年度は、にしく市民活動支援センターが民営化された初年度のため、区内の市民活動や地域活動、生涯学習の活動状況を知ることから始めました。当事者性・相互性・現場性を大切にしながら、以下のことに力を入れて事業を実施しました。

●市民公益活動団体（以下、活動団体）や地域、区内の施設の活動現場を訪問し、協働事業の開催を始めとして、コーディネートの基盤をつくりました。

- ・ 「50 団体・現場訪問」を行うことにより、地域の実情に応じた事業の企画・運営等の礎を築いていきました。
- ・ 区内の 22 施設が集まる施設連携推進会議に先立ち、各施設へヒアリングを行ったところ、地域支援の重要性が共通してあることがわかり、社会福祉法人横浜市西区社会福祉協議会（以下、西区社協）との共催を実現しました。

●若い世代と地域がつながるきっかけとしての事業を実施し、若い世代の力がまちで活きる場づくり・人づくりを進めました。

- ・ 子育て世代居場所づくり応援シリーズの「にしレク」を通じて、ニーズの把握を行いました。
- ・ 情報紙の企画会議メンバーの選定へ反映しました（5 名中 4 名が 30～40 代）。
- ・ つながりづくりを重視し、西区地域づくり大学校や西区地域自立支援協議会などへの参画を通じて、若手キーパーソンと多くつながりました。

●仲間・共通体験から得る共感の“わ”を大切にしたプログラムを、区民参画で実施しました。

- ・ リニューアルオープンイベント実施にあたり、地域の様々な団体の方から協力を頂きました。
- ・ 「ツール・ド・にしく」（まち歩き企画）を、にしく特派員ボランティアと企画し、高島中央公園愛護会、ハマの海を想う会、西区地域子育て支援拠点スマイル・ポートの協力のもと、「みなとみらいさんぽ」を実施しました。

【2014（平成 26）年度 重視した取組】

- 「50 団体・現場訪問※¹」を行うことにより、地域の実情に応じた事業の企画・運営等の礎を築いていきました。

西区内の活動や地域での取組などを知り、事業の企画・運営の土台を築く目的で、「50 団体・現場訪問」を行いました。特に、子育て支援に取り組む活動団体や区民利用施設を中心に活動が行われている場を訪問しました。

- ① 地域子育てサロンでは、場を提供している方、利用している方、両方の声を聴くことが出来、予想以上の効果が得られていることがわかりました（お母さん：「歩いて通える範囲に天候に左右されずに乳幼児を遊ばせる場所があって助かる」自治会：「サロンに取り組んだことで、地域行事に若い世代の方々が参加するようになった」）。
- ② 団体から、日頃感じている、代表者と各スタッフ間のコミュニケーション、今後活動を続けるための人手確保などの課題とともに、障がい児施設において、「利用する子どもが 1 ケタ台だったのが、最近認知度が上がり、100 人に増えました」という身近な喜びも聞きました。

これらのように直接お伺いし、活動に参加したり、ヒアリングすることで、お互いに顔が見え、日頃の活動上での疑問などちょっとした相談がしやすい関係となることができました。

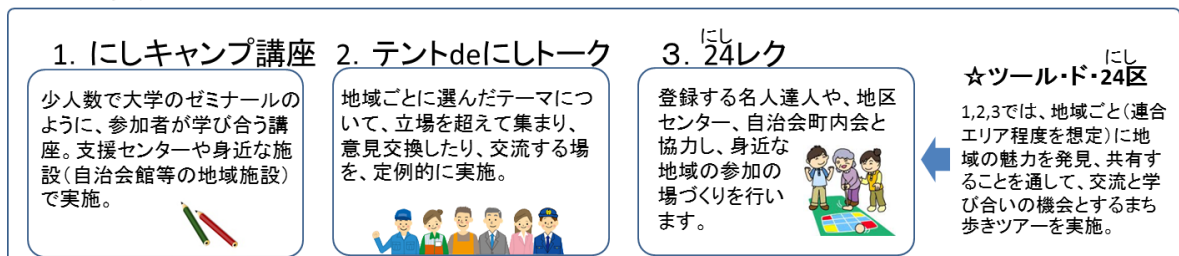
※ 1. 2014 年度実績として、57 団体・現場の訪問となりました。

■ 事業展開イメージ

仲間感を大切にしたい運営を実現するキーワードとして、『にしとも広場』を事業展開イメージの中心に置き、以下のように全体像を描きました。

愛称が「にしとも広場」となったことに伴い、講座名も「にしキャンプ」から「にしとも講座シリーズ」に変更しました。

にしキャンプ（にし市民活動支援センターの事業の総称）



Ⅱ. 個別事業報告

1. 相談事業

◆相談者とセンターの双方向の「良い関係」づくりを通じた団体エンパワメント

待っているのではなく積極的にセンターの外に出ていく姿勢のもと、団体の活動現場への訪問や日頃の利用者への声掛けを積極的に行いました。また、職員同士の地域情報を共有する場を設け、窓口でのコーディネートや講座開催に活かしました。相談件数実績は、月平均 38 件、合計 450 件となりました（2 月 28 日現在）。

実施したこと

1) 団体情報、および相談事例の蓄積・分析

日常的なコミュニケーションから団体の課題などの相談を頂くことが多い傾向がありました。今年度の相談の傾向として、地域の居場所をどのようにつくっていくと良いのか、その運営資金や運営方法などの相談が寄せられました。

また、西区地域づくり大学の事務局の一端を担い、特に地域活動団体のメンバーと活動を共にしたことで、他の地域情報に関することや地域活動の団体運営に関する相談で来館される方が徐々に増加しました。

2) 地域情報の共有ワークを実施

職員全員での会議で、各職員が「50 団体・現場訪問」時や、当センターに来館された際に利用者の方々から伺った地域情報を付箋紙に書いて分類する共有ワークを行い、「地域で何が起きているのか」「地域にはどのような課題に取り組んできた方がいらっしゃるのか」「地域ごとの生活圏はどのエリアなのか」などの情報を共有しました。こうした情報を、日頃いただく様々な相談への対応や、講座や情報紙のテーマ設定などに活用しました。

3) 相談力の向上のための職員研修を実施

相談の中には、相談者の家庭事情や家族関係などのセンシティブな内容を含む場合も多くあります。個人情報研修と合わせて、どのようなスタンスで相談に応じ、どのような問いかけを行うと、相談の本質にあった情報提供につながるのか、事例をもとに研修を実施しました。

2. 活動団体のネットワーク化

◆西区の地域づくりをともに作る仲間感を育む

団体同士がつながる、きっかけづくりの場を交流会等で設定しました。

実施したこと

1) 「テント de にしトーク」（センターや地域施設で実施する利用者懇談会）の開催

「西区」を中心に市民活動団体や生涯学習団体、自治会町内会で活動する、世代や背景の異なる方々が参加し、普段接点を持つ機会がほとんどない活動者が集う機会となりました。「活動のジャンルや対象が違ったので、色んな団体があることを知り、良い刺激になった」との声をいただきました。

①「テントde にしトーク」

日時：2014年12月19日（金）15:15～17:00

「共感のわをひろげる広報を考えよう」と同日開催

会場：生活創造空間にし5F 食堂

参加人数：20名

内容：自己紹介ワークショップ「オリジナルの名刺づくり」

アイスブレイキング「リズムでつながろう西区のわ」（名人・達人ラテンパーカッションの加藤ちゃぼ氏）

にしとも広場事業のご案内

②「NPO 交流会 にし NPO ポットラック Party !」

日時：2015年3月13日（金）15:15～17:00

「助成金活用準備講座 ファン度 UP のコツ」と同日開催

会場：西区福祉保健活動拠点（フクシア）多目的研修室

参加人数：15名

内容：アイスブレイキング「お菓子な私」

各団体の一押し事業や課題を持ち寄るポットラックパーティー

2) “学び合いの場づくり”を通じた活動団体同士のつながりづくり

地域の課題解決を目指すには、各団体の強みを活かすことが大切です。そこで、「運営基盤の充実に必要な資金・資源の調達と活用にあたり、日頃どのような準備をするとよいか」などに焦点を当てました。

実施したこと

テーマ・開催日時・会場・ 参加者数	講師	主な内容
「共感のわをひろげる広報を考えよう」 2014年12月19日（金） 14:00～15:15 生活創造空間にし5F 食堂 21名	齋藤保氏（株式会社 イータウン代表）	0. イントロ 1. レクチャー 第1章 PR ってなあに？ 第2章 情報発信 5つのツボ 第3章 伝わるためのワンポイントテクニック 2. まとめ 3. アナウンスメント
「助成金活用準備講座 ファン度 UP のコツ」 2015年3月13日（金） 13:30～15:00 フクシア多目的研修室 14名	東恵子氏（NPO 法人 シャーロックホームズ 理事長）	0. イントロ 1. 講義 2. 個人ワークと グループディスカッション 3. Q & A 4. アナウンスメント

※なお、減災・防災をテーマにした学び合いは、2015 年度西区地域づくり大学校のプログラムへ反映する予定です。

3. 情報提供・発信事業

◆商店会、自治会町内会、区民利用施設等と連携した情報提供・発信の仕組みづくり

様々な活動分野の当事者および支援者の方々が企画から参画する仕組みを設け、どのような情報を提供すると良いか、話し合う場をもちました。今年度は特に当事者視点の情報提供に重点を置き、取り組みました。

実施したこと

1) ウェブを通じた情報収集・発信の仕組みづくり

にし市民活動支援センターのウェブサイトは、西区役所のサイト内に組み込まれており 当センター独自のサイトを新設するまでは、西区地域振興課との連携により、更新してきました。

2) 情報紙（年3回発行）の作成

情報紙については、前年度までの『ぽこあぽこ』からデザインおよび掲載内容を全面リニューアルし、コンセプトを「まちづくり（市民活動・地域活動）に関わるきっかけづくりのツールとする」、「市民活動・地域活動を応援する情報を提供する」としました。

また、主な対象を「30～40 代の現役世代（子育て中の層）」と「現在活動中の既存団体（市民活動・地域活動）」として、手に取りやすく、かつ具体的な行動につながる情報の提供を心がけ、体裁は、A3 サイズの二つ折りでフルカラーの両面印刷としました。

情報紙企画の進め方の特徴としては、第2号より主なターゲット層の方で地域活動を行う方、名人・達人、登録団体の方々など5名による「企画会議」を設け、当事者視点の企画内容やわかりやすく親しみやすい言葉づかいとなるように工夫しました。

●企画会議

メンバー：石崎麻理氏（西区在住者）、高野圭子氏（にしく名・達の会、生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」トールペイント）、松本道雄氏（高島中央公園愛護会）、山田美智子氏（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート）、齋藤保氏（株式会社イータウン）

実施回数：3回

内容：特集テーマの検討、広報戦略の検討など



<創刊号>



<第2号>



<第3号>

No.	発行月	特集テーマ・内容の説明
特別創刊号	7月	「新しくなった『にしく市民活動支援センター』」と題し、当センターの紹介や利用者のメッセージを掲載しました。
第2号	12月	「私のとっておきの場所を見つけてみよう!」の特集で、区内の6か所の居場所を紹介し、「あなたもまち暮らしを楽しむ仲間とつながってみませんか?」と呼びかけました。
第3号	2015年3月	「世話焼きさんがまちを行く!」の特集で、区内の世話焼きさん3人のインタビューと、対談「世話焼きさんがいる、あったかいまち★」の記事で、身近な困りごとを目配り、気配りして、まちに安心感をもたらしている世話焼きさんになるヒントを探りました。

特集以外では、「こんなところが近くにあったらいいな」と思う場やグループをスタッフが訪問して、運営の工夫や知恵を紹介する「まちづくり★現場ふむふむレポート」、「にしとも広場の講座」、「行けぜ!! まちの施設」というタイトルの西区内の公共施設の紹介、「西区の気になる情報紙」のコーナーを毎号設けています。

3) 地域ポータルサイトによる地域課題、活動団体の見える化の実施に向けた準備

新設された当センターのウェブサイトの来年度以降の地域ポータルサイト化に向けて、掲載する内容を整理するとともに、地域情報の発信に関する準備を行いました。

4) 近隣商店との広報連携、自治会町内会の掲示板等の活用による情報提供

にしとも広場の機能を知り、活用のしやすさを向上することを目的に、商店街や自治会町内会が持つ広報手段を活用し、情報紙『にしとも広場』第2号からは、西区連合町内会・自治会連絡協議会および、各自治会町内会の協力のもと、班回覧(2500部)を行いました。それにより、「情報紙見たよ! カラーで、言葉づかいもわかりやすくていいね」とのご感想をいただきました。また、西区地域づくり大学校の受講生募集に関して、講座の周知に掲示板を活用しました。

5) マンション管理組合への広報活動

3月28日に行った、特派員や利用者有志とのまち歩き企画「みなとみらいさんぽ」の実施に当たり、みなとみらいの4つの高層マンションの自治会・管理組合等で構成する「4M情報交換会」にてイベントの周知を行うとともに、チラシの配架および掲示、ポスティングに関してご協力いただきました。

6) 取材等を行う区民が担う特派員の活動の検討

にしく特派員は、2011年度に実施した講座の事後グループとしてできた、西区の魅力を発信していこうという目的のもと開始した活動で、10名の方が登録しています。写真とコメントをホームページに掲載する形を取っていたものの、年々投稿が減ってきたため、今後の活動を見直すべく、7月のリニューアルオープンイベントにて、登録メンバーおよび関心のある方々との意見交換会を開催しました。その意見をもとに、今年度は「細い道グランプリ」と「西区気になる木」をテーマに、交流会を2回開き、各回で集まった写真をセンター内および区役所ロビーに展示しました。さらにまち歩き「ツール・ド・にしく」のエリア設定や下見など、当センターの事業にご協力いただきました。

7) テーマに応じて広報西区へ掲載

2014 年 6 月号に広報よこはま西区版に、「愛称募集」の記事を掲載しました。



【広報よこはま西区版 6 月号より抜粋】

また、7 月号には、西区地域づくり大学校の受講生募集の記事が掲載されたほか、10 月号に「特集 1 第 39 回西区民まつり」のページに出展者として紹介されました。

4. 場の提供

◆愛着の持てる、誰もが立ち寄りたくなるセンターへ

活動に関わったことのない方が気軽に入り、区内を始めとする多くの市民公益活動の取組を知る場となるよう、ふらっと入れる空間づくりを行うと共に、コミュニケーションの生まれる場づくりを意識して掲示板等を設置しました。2015 年 2 月末現在、来館者数は 2,291 名、月平均が 208 名^{※3}でした。これは 2013 年 11 月に西区役所から現在の大向ビルへの移転があったため、単純比較はできないものの、2013 年度に比べ、利用人数は約 210%^{※3}と倍以上の利用となっていることがわかります。

※3. 統計は全て 2015 年 2 月末現在の数値です。

実施したこと

1) コミュニケーションのきっかけづくりや親しみやすさの創出

① キッズスペースの設置

このスペースには、芝生とティピー型のテント、絵本やぬいぐるみなどを置き、ガラス面から良く見える入口付近に配置しました。

② カフェコーナーの設置

ミーティングの合間に休憩できる空間を設け、リフレッシュしやすい環境を整えました。

③ 屋外入口スペースでの入りやすさの工夫

軒先に、芝生と木目調の丸テーブル、スツールを設置し、チラシや情報紙を配架したことで、交差点の信号待ちの間に立ち寄り、チラシをご覧になる方も多数いました。

キッズスペース用
ティピー型テント



④ ウェルカムボードの設置

手書きのホワイトボードである「ウェルカムボード」を入口の外に設け、ブラジルで開催されたサッカーW杯の際には、関連イベントを紹介するブラジル特集、秋にはウォーキングイベント特集を組むなど、季節に応じたイベントや情報を記載し、センター内にある情報との関連を示したことで、チラシを求めて来館される方が急増しました。

その他、季節にあわせた装飾品を設置するなど、いつもどこかに変化があり、また来なくなる空間づくりを行いました。

2) 施設内外において、わかりやすい情報提供やサイン掲示を実施

利用者の方々が、活用しやすいようなセンターとなることを心がけています。

情報をより見やすくなるよう、チラシラックに以下のような工夫をしました。

- ・ 分野名が貼付してあるチラシラックが外から見えるよう、入口脇に配置しました。
- ・ 情報を探しやすくなるため、チラシラックを入口近くの 3 分の 1 エリアに集中的に配置しました。
- ・ 西区内の情報チラシ・コーナーを新設しました。
- ・ 助成金および「市民活動耳より情報コーナー」を新設しました。



【助成金・市民活動耳より情報コーナー】



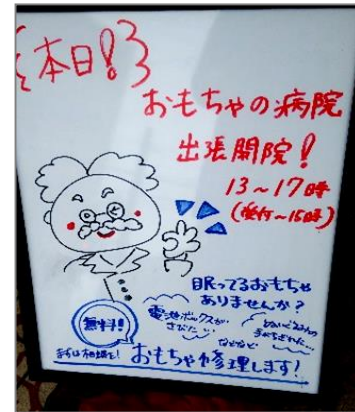
【外からの見える化】

3) 木質系材料を活かした空間づくりによる、居心地良さの向上

- ・黒板を活用した「にしとも広場おすすめメニューのご案内」や実施中の事業紹介ボードを設置し、あたたかい雰囲気となるよう、心がけました。



【受付前に設置するにしとも広場おすすめメニューボード】



【ウェルカムボードの例】

4) 仲間感を大切する接遇研修や、個人情報研修などを通したリスクマネジメント体制の確立

- ・ 事業説明や企画報告を通して、センターが目指す役割を常に共有しました。また、日頃の対応を職員が相互にチェックしました。
- ・ 当センターで起こり得る様々なケースを想定し、個人情報保護に関する研修を実施しました。

5) 「コラボギャラリー」の設置による団体の作品や活動の紹介

コラボギャラリーに替えて、手づくりの黒板を設け、当センターで実施する講座や区民の方々が参画する企画の作品などを掲示しました。



【付箋紙アート「みんなで大きな絵をつくろう」】

テントをモチーフに、1枚1枚に書いた方々の「感謝」の気持ちが込められています。

5. 地域人材ボランティアバンク事業

◆現場訪問で得た活きた情報を、施策や事業に活かすために

身近にいる方々の経験が地域の中で活かされ、まちも人も相互に元気になるようことや、登録者の方々のスキルアップなどを目的とし、より見やすいガイドブックの作成、コーディネート、にしレク（身近な参加の場づくり）の実施を行いました。

実施したこと

1) 「生涯学習ボランティア西区街の名人・達人」ガイドブックの更新

- ・ 今年度ははじめに全登録者にご案内を送付し、ヒアリングを行ったうえで登録更新を行いました。また、新規登録が9件ありました。
- ・ ガイドブックのフォーマットを見直しました。各名人・達人の特徴やプログラム例を記載し、また、活動の様子がわかる写真・画像を貼付し、利用する側にとって見やすく、活用しやすくなるようなフォーマットに更新しました。
- ・ 西区連合自治会町内会連絡協議会(以下、区連会)での周知を行いました。区連会では、本ガイドブックおよびダイジェスト版発行に伴い、ご案内したところ、各単位町内会でもご紹介いただくことができました。ある名人・達人登録者からは、「自治会の会合の中で紹介してもらえたので、掲示を頼みやすくなりました。」とお話を伺いました。



2) 「生涯学習ボランティア 西区街の名人・達人」のコーディネート

2015年2月末現在で、58件の依頼があり、そのうち、成立は38件で、65.5%が成立したことになります。加えて、最も依頼の多い月は、9月と1月の各9件でした。活動自体は、春（5月）と秋（10・11月）のイベントシーズンに集中していました。

今後は、成立に至らなかったケースへのフォローを強化していきます。具体的には、曜日を決めて、依頼者へ成立したかどうかの確認を徹底していくことを試行しています。

3) 「にしレク」の協働実施

今年度は、当センターおよび、出張での取組を7回行い、うち2回は、「子育て世代の居場所づくり応援シリーズ」として実施しました。これらの目的は、大きく分けて2点ありました。1つは、名人・達人の方の活躍の場を提供すること。もう1つは、主に30～40代の子育て世代の方が地域や子育ての情報を得、参加者同士のつながりを持ち、地域に興味・関心を持つことにより、将来的に地域活動に参加するきっかけにつなげることでした。



① 子育て世代の居場所づくり応援シリーズ（会場：にしとも広場）

テーマ・開催日時・参加者数	講師	主な内容
アロマで“リラックス&リフレッシュ”肌に優しいクリームづくり 2014年11月13日（木） 10:00～12:00 大人5名+乳幼児4名 （託児付き） 協力：NPO法人はぐと コアラの会	佐上智美氏（名人・達人登録者、アロマの森メロディ代表）	講義：アロマの効能 体験：アロマクリームづくり 講師の経験談～名人・達人に登録したきっかけとは？ 参加者の声： ・「子どもを見えるところで預かって頂くことで安心して楽しめました！」 ・「授乳スペースがあると、より安心です。」
おとうさん&おかあさんは大工さん!「木のおもちゃをつくろう！」 2015年2月14日（土） 10:00～13:00 大人14名+子ども13名	藤森伊佐美氏 （名人・達人登録者、西区寺子屋ボランティアサークル、建築工務店） ・サポート講師： 吉成輝雄氏（建築工務店）	講義：道具の使い方 体験：おもちゃづくり 参加者の声： ・「普段ふれることが少ない木材を使って、加工作業ができて良かったです！」 ・「作業の中で、家族向けの交流を促す事ができれば、なお良かったです。」

② 出張にしレク

センター以外の場所でも、名人・達人と共にイベントを実施しました。西区民まつりおよび藤棚地区センターでの「第13回西区街の名人・達人まつり」に出展しました。後者では、付箋紙アート「みんなで大きな絵をつくろう」にて、「〇〇さんへありがとう」をテーマに付箋紙を書いていただくという企画に、当イベントの一般参加者に参加していただきました。

③ その他

- ・ リニューアルオープンイベントにて、横浜ラフターズヨガの「笑いヨガのプチ体験」、桃川健氏の「江戸紙切りの披露」を行いました。
- ・ 利用者交流会のテント de にしトークおよび、施設連携推進会議では、アイスブレイキングとして、また、名人・達人の活動紹介の一環として、加藤ちゃぼ氏によるラテンパーカッション体験講座を行いました。

6. 区民利用施設等との連携による活動支援

◆ ネットワークの強化による、地域づくり支援

「顔の見える関係から地域支援を行うこと」を目的に、区民利用施設（22 団体）と「子ども（学齢期）の地域の居場所」をテーマに会議を行いました。なお、会議の開催に先立ちヒアリングを9施設で行いました。また、今年度より西区社協と共催とし、こうした連携のもと、地域づくりのコーディネート人材の養成にもご協力をいただきました。

実施したこと

1) 区民利用施設等との連携会議の実施

今年度は、会議は1回のみとし、10月より各施設にてヒアリングを行い、各々が感じている最近増えてきた地域の課題や、施設連携推進会議のあり方などを考え合いました。また西区社協には、今後地域支援を行う方針とのことで、連絡会議の共催をご快諾いただき、西区地域振興課と連携のもと、初の試みとして、今回は西区社協と共催しました。

今回のテーマである「子ども（学齢期）の地域の居場所」は、中学生が暴行を受けるという事件が相次いでいることから参加メンバーの関心が高く、「課題の本質は何か」「地域の施設として、どのような役割を担っていくべきか」などについて、グループディスカッションを通じて、話し合いを行いました。

テーマ・開催日時・会場・ 参加者数	ゲスト・ファシリテーター等
「子ども（学齢期）の 地域の居場所」 2015年2月27日（金） 13:30～16:30 ふりーふらっと野毛山 101 号室	<事例紹介者> 阿久津強氏（ふりーふらっと野毛山 センター長） 吉田佐知子氏（藤棚地区センター 副館長） 渡部嘉子氏（西前小はまっこふれあいスクール 職員） <アイスブレイキング> 加藤ちゃぼ氏（西区街の名人・達人登録：ラテンパーカッション）

【参加施設 14 施設 21 名】

- ・ 地区センター2 施設（西地区センター、藤棚地区センター）
 - ・ 地域ケアプラザ3 施設（藤棚地域ケアプラザ、戸部本町地域ケアプラザ、宮崎地域ケアプラザ）
 - ・ 他9 施設（戸部コミュニティハウス、西前小学校はまっこふれあいスクール、にこまちコミュニティ文庫、平沼集会所、西スポーツセンター、西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート、青少年交流センター（ふりーふらっと野毛山）、西区福祉保健活動拠点（フクシア）、にしく市民活動支援センター“にしくとも広場”）
- またヒアリング時に、「（仮）骨プロ^{※4}」の実施の可能性について伺ったところ、参加施設に対して「主催するイベントのチラシを他施設にも送れないか」という問い合わせがあることがわかったため、引き続き、実施の可能性について話し合いの場を設け、検討していきます。

※4：仙台市市民活動サポートセンターが行う「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト（通称：骨プロ）」のこと。チラシ広報について、1つのセンターがハブとなり、区内のセンター全部に配架できるシステム。

2) 区民利用施設等との連携による地域づくりのコーディネート人材の養成

地域人材の養成講座である「西区地域づくり大学校」の第4講では、区内および、市内等のまちづくりに関する支援制度を西区社協 事務局次長の三木氏より「にこまち助成金」などの支援制度の活用方法について話して頂き、受講生が活用方法を知る機会となりました。

7. その他の事業

◆活動団体の運営力 UP と、活動団体の力が活きる事業の企画・実施に向けて

活動団体の運営力の向上を目的に、今年度は「共感」をキーワードにしとも講座シリーズとして広報および、資金調達に関する講座を実施しました。また、リニューアルオープンを記念したイベントを実施する等、活動者が参加しやすいイベントを開催しました。

実施したこと

1) リニューアルオープンイベント

「芝生で話そう！身近にできることーまちのスマイルメーカー大集合ー」

日時：7月26日（土）10:30～16:00

場所：にしとも広場

今後の事業の展開や運営法人を紹介し、参加者がお互いに知り合う、オープニングイベントを実施し、当日は、活動団体や名人・達人、利用者、行政など計 117 名の参加がありました。

またこの模様は、タウンニュース中区・西区版でも記事でご紹介いただきました。



① 愛称の発表

6月の公募、一般投票をもって「にしとも広場」に決定し、イベントにてお披露目しました。（応募総数 25 件、投票数 125 票）大久保智子区長により応募者へ記念品授与を行いました。



【応募者の和嶋氏へ大久保区長より感謝状と記念品をお渡ししました。】

② 交流イベント

西区で活動する4名の方々による、トークイベント「芝生で話そう、身近に感じること」を実施しました。それぞれの「活動に入ったきっかけ」や「今後、活動に関わろうとしている方々へのメッセージ」などのお話いただきました。

<ゲスト>

- ・楠恵子さん（平沼共育ネットワーク運営委員長 学校地域コーディネーター）
- ・今井宏之さん（藤棚一番街商店街協同組合専務理事 商店主）
- ・吉田紅峯さん（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」水墨画講師）
- ・山田美智子さん（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート施設長）

【ゲストスピーカー4名から熱いメッセージ
をいただきました！】



2) 区民まつりに参加することによる、にし市民活動支援センターの活用方法の周知促進

区民まつりでは、戸部公園のブースに目印の芝生とテントを出張させて、親子連れが靴を脱いでくつろげるスペースをつくり、そこで、名人・達人による大型絵本の読み聞かせや手遊び、ハワイ産の貴重なナッツの殻を用いたハワイアンリボンのストラップづくりを行いました。

また、共通のデザインの看板と風船を目印に、にし名・達の会、NPO 法人はぐっと、藤棚一番街商店街協同組合との4者協働でスタンプラリーを行いました。当センターは、ゴール兼景品交換所を担いました。

テーマ・開催日時・会場・ 参加者数	事例発表・ゲストな ど	主な内容
2014年11月1日（日） 10:00～16:00 会場：①戸部公園くらしの広場 ②にしとも広場	・甘糟ますみ氏（名人・達人登録者） ・おはなしボランティア ぽっぽぽ（名人・達人登録者） ・おはなしげきじょう まかろん（名人・達人登録者）	【戸部公園ブース】 ・工作コーナー「お守りにもなる！ハワイアンリボンでストラップづくり」／「モールでマスコットづくり」（材料費実費¥200） ・“おはなし会と手袋シアター” ・“音楽と映像を交えた朗読” ♪映像を使ったおはなし会♪

	・フレンド工房 白岩 秀勝氏（名人・達人登録者）	【にしとも広場】 ・パステルシャインアート“クリスマスカードづくり”（材料費：子ども¥300、大人¥500） ・景品交換所 ※開館日のため、通常の業務も同時並行で行いました。
--	-----------------------------	--

3) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ① 横浜市市民活動支援センターが実施する研修、およびネットワーク会議への参加
- ② 相鉄沿線6区市民活動支援センター会議への参加（年1回）

8. 区役所との協働

◆ 所轄課及び関係課との連携によるセンター事業の目的共有と、総合的なコーディネートの実現

所轄の地域振興課とは密に連携し、協働運営における互いの良さを発揮できるよう、お互いに疑問に感じる際は、じっくりと話し合いを重ねて取り組みました。

実施したこと

1) 日常的な「報・連・相」や定例会議で成果や課題を丁寧に共有

定例会議としては、4月～2015年3月で14回行い、その他、日々細々とした内容に関してもお互いに相談し合うなど、丁寧に共有する機会を設けました。

2) 協働契約書を締結し、センター事業の目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

お互いの強みが活かした運営となるよう、役割を細かく話し合い、文言に齟齬がないかどうかじっくりと話し合ったうえで、「にし市民活動支援センター運営事業 協働契約書」を締結しました。

4) 区役所と当法人理事との組織同士の会議で、信頼関係の構築とセンターの方向性を共有

年度始めに理事長・担当理事を交えた会議を実施し、また、事務局長・担当理事との会議も実施し、お互いの方向性について共通認識を持って取り組みました。

5) 事業の企画や実施において所轄課とセンターのみならず、内容に応じて、関係課や他の支機関と連携・協働した総合的なコーディネート機能の実現

～ 福祉保健課、総務課（防災担当）、こども家庭支援課、西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート（以下、スマイル・ポート）～

第3期西区地域福祉保健活動計画の策定の際にボランティア・市民活動検討会へ参画、西区の防災減災の取組の共有、地域子育てサロンへの講座周知や情報紙の取材などで連携を行ってきました。また、スマイル・ポートとは、にし特派員および有志の企画のまち歩き「ツール・ド・にし」を協働で取り組みました。

6) 事業終了後、協働に関する相互検証シートを作成し、センター運営に関する協働のふりかえりを実施

年度終了後には、事業報告をもとに「協働に関する相互検証シート」を作成し、にしく市民活動支援センター運営事業における西区との協働の取組を振り返りました。

9. その他、視察の受入れ・講師等の依頼（※報告のみに追加した項目）

他地域の中間支援機関や、行政の研修、また、まちづくりを学ぶ学生など、様々な世代やジャンルの方にお越しいただきました。中でも、岩手県からは2名別々の機会に訪問があり、横浜、西区の市民活動、地域活動の状況を熱心に聞いていらっしゃった上、これから中間支援としてどのように地域に根付いて活動を行っていくとよいか、といったお話をいただきました。

【視察等】

<横浜市内>

- ・ 新任副校長研修3名（横浜市立西前小学校、横浜市立老松中学校、横浜市立桜丘高校）
- ・ 横浜市立大学 三輪准教授の基礎ゼミ受講学生（1年生）4名
- ・ 横浜市立軽井沢中学校 職業体験1名
- ・ 横浜市社会教育コーナー 事務長 他1名（NPO法人横浜市民アクト運営）
- ・ とつか区民活動センター センター長 他3名（NPO法人くみんネットワークとつか運営）

<横浜市以外>

- ・ 大船渡市市民活動支援センター事務局次長（岩手県大船渡市）
- ・ NPO法人つどい事務局長（岩手県大槌町）

他、多数の方にご来訪いただきました。